

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2020-19495
(P2020-19495A)

(43) 公開日 令和2年2月6日(2020.2.6)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 77/06 (2006.01)	B 6 5 D 77/06 H	3 E 0 6 4
B 6 5 D 33/36 (2006.01)	B 6 5 D 33/36	3 E 0 6 7
	B 6 5 D 77/06 D	

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2018-142851 (P2018-142851)	(71) 出願人	000003768 東洋製罐グループホールディングス株式会社 東京都品川区東五反田2丁目18番1号
(22) 出願日	平成30年7月30日 (2018.7.30)	(71) 出願人	313005282 東洋製罐株式会社 東京都品川区東五反田2丁目18番1号
		(74) 代理人	100153497 弁理士 藤本 信男
		(74) 代理人	100092200 弁理士 大城 重信
		(74) 代理人	100110515 弁理士 山田 益男
		(74) 代理人	100189083 弁理士 重信 圭介

最終頁に続く

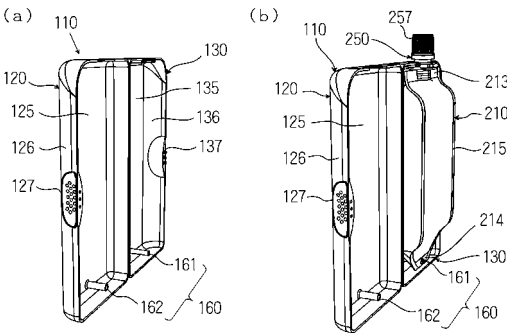
(54) 【発明の名称】 外装体および二重構造容器

(57) 【要約】

【課題】 簡素な構成で、二重構造容器の姿勢にかかわらずスパウト付きパウチ内に流路が確保され、従って内容物である飲食物の飲み易さに優れた外装体および二重構造容器の提供を目的とする。

【解決手段】 本発明の外装体 1 1 0 は、パウチ本体 2 1 0 にスパウト 2 5 0 を装着したスパウト付きパウチ 2 0 0 を収容する外装体であって、開閉可能な筒状体よりなり、閉状態としたときの一端部に、前記スパウト付きパウチを内部に収容したときに前記スパウトが外部に突出される状態に固定することが可能な開口 1 5 0 が備えられると共に、閉状態としたときの前記一端部とは異なる他端部に前記スパウト付きパウチの前記スパウト以外の部位を固定することが可能な固定機構 1 6 0 が備えられていることを特徴とする。

【選択図】 図 2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

パウチ本体にスパウトを装着したスパウト付きパウチを収容する外装体であって、
開閉可能な筒状体よりなり、

閉状態としたときの一端部に、前記スパウト付きパウチを内部に収容したときに前記スパウトが外部に突出される状態に固定することが可能な開口が備えられると共に、閉状態としたときの前記一端部とは異なる他端部に前記スパウト付きパウチの前記スパウト以外の部位を固定することが可能な固定機構が備えられていることを特徴とする外装体。

【請求項 2】

前記固定機構が、前記スパウト付きパウチにおける前記スパウトと反対側の前記パウチ本体の底部を固定可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の外装体。

10

【請求項 3】

前記固定機構が、前記スパウト付きパウチの前記パウチ本体の肩部を固定可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の外装体。

【請求項 4】

前記固定機構が、前記スパウト付きパウチの前記パウチ本体のシールされた側縁部を固定可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の外装体。

【請求項 5】

前記固定機構が、前記スパウト付きパウチの前記パウチ本体の胴部を固定可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 に記載の外装体。

20

【請求項 6】

前記固定機構が、前記パウチ本体のシールされた周縁部に形成された貫通孔に挿通されるピンを有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の外装体。

【請求項 7】

前記固定機構が、前記パウチ本体の底部、肩部または胴部を挟む挟持部を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のいずれかに記載の外装体。

【請求項 8】

前記開口に、前記スパウト付きパウチの前記スパウトの側周面に設けられた凹所に係合可能な係合片が突出して設けられ、

30

前記係合片が前記スパウトの凹所に係合することによって、前記スパウト付きパウチが前記開口に固定されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のいずれかに記載の外装体。

【請求項 9】

パウチ本体にスパウトを装着したスパウト付きパウチと、当該スパウト付きパウチが収容される外装体とよりなる二重構造容器であって、

前記外装体が請求項 1 乃至請求項 8 のいずれかに記載のものであることを特徴とする二重構造容器。

40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、パウチ本体にスパウトを装着したスパウト付きパウチを収容する外装体、並びに、外装体と当該外装体に収容されたスパウト付きパウチとよりなる二重構造容器に関する。

【背景技術】**【0002】**

50

従来、フィルムを重ね合わせてシールしたパウチ本体に注出口としてのスパウトを装着したスパウト付きパウチに、ミネラルウォーター、ソフトドリンク類などの液体飲料や、ゼリー飲料、スムージー、フローズアイスクリームなどの流体食品を詰めたパウチ飲料が広く普及している。

液体飲料や流体食品を充填する容器がこのようなスパウト付きパウチであると、例えばPETボトルなどと比較して軟質であるため廃棄されるゴミの総量を抑制する効果などが見込まれる一方、軟質であるがゆえに保形性に劣り、また外力に弱いという問題が生じる。

このような問題を解決するために、例えば特許文献1には、軟質合成樹脂製のスパウト付きパウチを硬質合成樹脂製のハウジングにスパウトを固定した状態で収容し、全体として保形性が得られる二重構造容器が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2000-118562号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、このような二重構造容器においては使用者が内容物を飲みにくいことがある、という問題がある。

すなわち、使用者が飲食物を摂取する際に顔や身体を傾けることなく飲食物を口に運ぶことを想定すると、使用者は二重構造容器内に残存する内容物の量に従って容器を次第に斜めに掲げていくことになる。然るに、上記の二重構造においてはハウジングにスパウトのみを固定しているために、二重構造容器を斜めに特に底部が水平よりも上方に位置する状態にすると、ハウジング内でパウチが折れ曲がるなどして流路が閉塞され、その結果、内容物の飲用に支障をきたしてしまう。

【0005】

本発明は、これらの問題点を解決するものであり、簡素な構成で、二重構造容器の姿勢にかかわらずスパウト付きパウチ内に流路が確保され、従って内容物である飲食物の飲み易さに優れた外装体および当該外装体とこれに収容されたスパウト付きパウチとよりなる二重構造容器を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の外装体は、パウチ本体にスパウトを装着したスパウト付きパウチを収容する外装体であって、

開閉可能な筒状体よりなり、

閉状態としたときの一端部に、前記スパウト付きパウチを内部に収容したときに前記スパウトが外部に突出される状態に固定することが可能な開口が備えられると共に、閉状態としたときの前記一端部とは異なる他端部に前記スパウト付きパウチの前記スパウト以外の部位を固定することが可能な固定機構が備えられていることを特徴とする。

【0007】

本発明の二重構造容器は、パウチ本体にスパウトを装着したスパウト付きパウチと、当該スパウト付きパウチが収容される外装体とよりなる二重構造容器であって、

前記外装体が上記のものであることを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明の請求項1および請求項9に係る発明によれば、筒状体の一端部にスパウト付きパウチのスパウトを固定する開口が備えられると共に他端部にスパウト付きパウチのスパウト以外の部位を固定可能に構成された固定機構が備えられているので、外装体内においてスパウト付きパウチが常に一定の姿勢で保定されることにより、簡素な構成で、二重構

10

20

30

40

50

造容器の姿勢にかかわらずスパウト付きパウチの変形による流路の閉塞が抑止されてスパウト付きパウチの流路が確保される。従って、スパウト付きパウチ内に充填された内容物の残存量が少なくなっても優れた飲み易さが得られ、その結果、容易に内容物を最後まで飲み切れるためにフードロス削減することができる。また、外装体を構成する筒状体の開口にスパウト付きパウチのスパウトが固定されることにより、キャップの開栓時および閉栓時に供回りが抑止されて開栓および閉栓が容易になる。また、外装体を硬質の材料によって形成することによって、使用者が鞆などに入れて持ち運び易く、スパウト付きパウチ内に充填された内容物を飲むときに把持し易く高いハンドリング性が得られる。さらに、スパウト付きパウチを内部に収容することができる以外に外装体表面にデザインの制限がないことから、高いデザインの自由度が得られる。

10

【0009】

本発明の請求項2乃至請求項7に係る発明によれば、外装体の固定機構においてスパウト付きパウチの底部や肩部、胴部、側縁部を簡単な構成で固定することができ、スパウト付きパウチを外装体内に確実に保定することができる。

本発明の請求項8に係る発明によれば、外装体の開口に突出して備えられた係合片がスパウトの側周面に設けられた凹所に係合することによってスパウト付きパウチが開口に固定されるので、スパウト付きパウチの外装体への固定が強固になされ、スパウト付きパウチの外装体内への落下が確実に防止されると共に、開栓または閉栓のためにキャップを回転させたときの供回りの発生が確実に防止されて極めて容易にスパウト付きパウチの開栓および閉栓を行うことができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の一実施形態に係る外装体にスパウト付きパウチを収容した状態を示す斜視図である。

【図2】図1の外装体を開状態にし、(a)スパウト付きパウチを取り外した状態を示す斜視図、(b)スパウト付きパウチを取り付けた状態を示す斜視図である。

【図3】図1の外装体を開口側から見た平面図である。

【図4】(a)スパウト付きパウチの底部の一部を拡大して示す正面図、(b)スパウト付きパウチを外装体に収容した状態における底部の一部を拡大して示す断面図である。

【図5】(a)図1の外装体の開状態における開口の周辺を拡大して示す斜視図、(b)(a)におけるスパウト付きパウチを取り付けた状態を示す斜視図である。

30

【図6】本発明の外装体の変形例を、(a)開状態においてスパウト付きパウチを取り付けた状態を示す斜視図、(b)わずかな開状態において底部の一部を拡大して示す斜視図である。

【図7】本発明の外装体の別の変形例を、(a)開状態においてスパウト付きパウチを取り付けた状態を示す斜視図、(b)(a)におけるスパウト付きパウチを取り外した状態を示す斜視図である。

【図8】本発明の外装体のさらに別の変形例を、開状態で示す斜視図である。

【図9】図8の外装体を、閉状態においてスパウト付きパウチを収容した状態で示す横断面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下に、本発明の一実施形態に係る二重構造容器100について、図面に基づいて説明する。

本発明の一実施形態に係る二重構造容器100は、パウチ本体210にスパウト250を装着したスパウト付きパウチ(以下、単に「パウチ」ともいう。)200と、当該パウチ200が収容される外装体110とよりなるものであって、パウチ200には、ミネラルウォーター、ソフトドリンク類などの液体飲料や、ゼリー飲料、スムージー、フローゼンアイスクリームなどの流体食品などの内容物が充填される。パウチ200は、内容量が300~500mLの大きさのものである。

50

【 0 0 1 2 】

〔 外 装 体 〕

本発明の一実施形態に係る外装体 1 1 0 は、図 1 および図 2 に示すように、上下方向（図 1 において上下方向）に沿って延在する分割線 1 1 1 から左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 に左右に 2 分割して観音開きで開状態とすることができる開閉可能な全体縦長の偏平な略有底筒状体よりなる。すなわち、左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 は、いずれも長方形の把持用壁 1 2 5 , 1 3 5 とその周縁から立ち上がって形成された側壁 1 2 6 , 1 3 6 とからなり、ヒンジ 1 1 2 を中心に開閉可能に相互に連結されている。左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 の側壁 1 2 6 , 1 3 6 のヒンジ 1 1 2 の反対側にはそれぞれ留め具 1 2 7 , 1 3 7 が備えられ、この留め具 1 2 7 , 1 3 7 が互いに係合することにより左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 が合体されて外装体 1 1 0 が閉状態とされる。外装体 1 1 0 が観音開きで開状態とすることができる開閉可能な構造を有することにより、パウチ 2 0 0 のスパウト 2 5 0 および底部の下縁シール部 2 1 4 の貫通孔 2 1 9（図 4 参照）を外装体 1 1 0 に固定する作業を容易に行うことができる。

10

外装体 1 1 0 には、閉状態としたときの上部に、パウチ 2 0 0 を頂部のスパウト 2 5 0 が外部に突出される状態に固定することが可能な開口 1 5 0（図 3 参照）が備えられると共に、下部にパウチ 2 0 0 の底部を固定することが可能な固定機構 1 6 0 が備えられている。

【 0 0 1 3 】

外装体 1 1 0 は、ある程度の剛直性を有すればよく、具体的にはポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレート、ポリカーボネート、アクリル樹脂、ABS 樹脂、エポキシ樹脂などの合成樹脂；スチール、アルミ、銅、銀、錫、または、これらの合金などの金属などによって形成することができる。外装体 1 1 0 がある程度の剛直性を有して強度が確保されることによれば、パウチ 2 0 0 に持ち運びや把持の外力を考慮した強度を付与する必要がないため、パウチ 2 0 0 を形成するフィルムの薄肉化や層構成の簡易化を進めることができる。

20

外装体 1 1 0 の外周面には、使用者による外装体 1 1 0 の把持位置に滑り止めの凹凸溝 1 1 8 による模様が形成されている。

なお、外装体 1 1 0 の具体的形状については、内部にパウチ 2 0 0 を固定して収容可能であり、かつ、使用者が外装体 1 1 0 を容易に把持することが可能なものであれば、如何なるものでもよい。また、外装体 1 1 0 は、輪郭に沿った剛直なフレームとフレーム間に張られた例えば透明シートなどの軟質カバーとにより構成されていてもよい。

30

【 0 0 1 4 】

外装体 1 1 0 の開口 1 5 0 は、図 3 に示すように、外装体 1 1 0 の上面に左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 にまたがった状態で厚み方向に貫通するよう形成されている。すなわち、開口 1 5 0 は、左側シェル 1 2 0 および右側シェル 1 3 0 の上部の側壁 1 2 6 , 1 3 6 にそれぞれ形成された切り欠き 1 5 1 , 1 5 2 が外装体 1 1 0 の閉状態において組み合わせられることにより内縁形状が環状になるよう形成されるものである。開口 1 5 0 には、パウチ 2 0 0 のスパウト 2 5 0 に設けられた凹所 2 5 6 に係合可能な係合片 1 5 5 が、右側シェル 1 3 0 から分割線 1 1 1 に向かって突出する状態に設けられている。

40

開口 1 5 0 は、パウチ 2 0 0 のスパウト 2 5 0 の後述するリブ 2 5 3 の外輪郭形状（具体的には丸形状以外の形状）に対応した輪郭形状を有するものとされ、この実施形態に係る外装体 1 1 0 においては八角形の外輪郭形状を有するものとされている。開口 1 5 0 が丸形状以外の輪郭形状を備えることによって、開栓または閉栓のためにパウチ 2 0 0 のキャップ 2 5 7 を回転させたときの供回りの発生が確実に防止されて極めて容易にパウチ 2 0 0 の開栓および閉栓を行うことができる。

【 0 0 1 5 】

外装体 1 1 0 の固定機構 1 6 0 は、図 4 に示すように、右側シェル 1 3 0 の把持用壁 1 3 5 の下部から左側シェル 1 2 0 に向かって突出する状態に形成された底部ピン 1 6 1 と、左側シェル 1 2 0 の把持用壁 1 2 5 の下部の底部ピン 1 6 1 と対応する位置から右側シ

50

エル 1 3 0 に向かって突出する状態に形成されたピン受け 1 6 2 とよりなる。

固定機構 1 6 0 は、少なくとも 1 対の底部ピン 1 6 1 およびピン受け 1 6 2 からなるピン留め具を有していればよいが、2 対以上のピン留め具を有していてもよい。例えば 2 対のピン留め具を有する場合には、パウチ 2 0 0 の下縁シール部 2 1 4 の両端にそれぞれ貫通孔 2 1 9 を形成し、2 対のピン留め具を各々の貫通孔 2 1 9 に対応する位置に形成すればよい。複数のピン留め具を有する固定機構 1 6 0 によれば、パウチ 2 0 0 の変形による閉塞を確実に抑止することができる。

【 0 0 1 6 】

〔パウチ〕

パウチ 2 0 0 は、重ねたフィルムの周縁部をヒートシールにより袋状に形成したパウチ本体 2 1 0 に、注出口として機能するスパウト 2 5 0 を装着して構成されている。 10

この実施形態に係る外装体 1 1 0 に収容されるパウチ 2 0 0 は、パウチ本体 2 1 0 の周縁部に形成されたヒートシール部が、上縁部に沿って帯状に形成された上縁シール部 2 1 3 と、下縁部に沿って帯状に形成された下縁シール部 2 1 4 と、側縁部に沿って帯状に形成された 4 つの側縁シール部 2 1 5 とを備えた、いわゆるガゼットタイプの形状を有する。

パウチ 2 0 0 の底部すなわちヒートシールされた周縁部のうちの下縁シール部 2 1 4 においては、その中央部にピン留め具を挿入して外装体 1 1 0 に固定するための貫通孔 2 1 9 が形成されている。

パウチ 2 0 0 を形成するフィルムの材料としては、ポリエステル、ポリプロピレン、ポリアミド、ポリエチレン、ポリブチレンテレフタレート、エチレン - ビニルアルコール共重合体等の合成樹脂性フィルムや、これら合成樹脂性フィルムにガスバリア性や水分バリア性を付与したコーティングフィルム又は蒸着フィルム等の公知の合成樹脂性フィルムを積層することや、合成樹脂製フィルムに紙またはアルミ箔を積層することで形成されたもの等が挙げられる。 20

なお、パウチ 2 0 0 は、その外形形状が外装体 1 1 0 の内部形状に適合して開口 1 5 0 および固定機構 1 6 0 によって固定可能である形状とされていれば、具体的形状についてはガゼットタイプに限定されず、ピロータイプのパウチ、平パウチ、スタンディングタイプパウチ等、様々な形態を採用することができる。

【 0 0 1 7 】

スパウト 2 5 0 は、図 5 に示すように、パウチ本体 2 1 0 の内部と外部とを連通させる貫通孔を有する筒部 2 5 2 を有するスパウト本体 2 5 1 と、このスパウト本体 2 5 1 に螺合可能なキャップ 2 5 7 とにより構成されている。スパウト本体 2 5 1 の筒部 2 5 2 の下部には、パウチ本体 2 1 0 を構成する表裏のフィルム間に挟まれて装着される台座（図示せず）が設けられており、この台座がパウチ本体 2 1 0 の上縁部の中央付近に装着されることにより、パウチ 2 0 0 の内部を密閉できる構造となっている。具体的には、パウチ本体 2 1 0 の上縁部において、パウチ本体 2 1 0 を形成する表裏のフィルムの間に台座を配置した後、表裏のフィルムを熱溶着することによってフィルムが台座の側面に熱溶着され、これにより、上縁シール部 2 1 3 が形成されると共にパウチ本体 2 1 0 の上縁部にスパウト 2 5 0 が装着される。 40

スパウト 2 5 0 のスパウト本体 2 5 1 には、八角形の外輪郭形状を有する板状のリブ 2 5 3 が 2 枚、上下方向に間隙を介して積層されて設けられており、2 枚のリブ 2 5 3 を貫通する状態にスパウト本体 2 5 1 の筒部 2 5 2 が設けられていることにより、2 枚のリブ 2 5 3 間に外方に開放された凹所 2 5 6 が形成される。凹所 2 5 6 の上下方向の幅は、外装体 1 1 0 の係合片 1 5 5 の厚みよりわずかに大きい程度とされる。

リブ 2 5 3 の外輪郭形状は、丸形でなければよく、四角形、五角形、六角形、七角形などの多角形とされていてもよい。

スパウト 2 5 0 を形成する材料としては、ポリエチレン、ポリプロピレン等の合成樹脂が挙げられる。

【 0 0 1 8 】

内容物の充填されたパウチ 200 は、外装体 110 内に收容され、外装体 110 の閉状態すなわち左側シェル 120 および右側シェル 130 の合体状態で留め具 127, 137 を嵌合することにより固定すると、全体として筒状体の外装体 110 にパウチ 200 が收容された二重構造容器 100 となり、必要に応じてスパウト 250 のキャップ 257 を外せば、パウチ 200 内に充填された内容物を、外装体 110 を開状態とせずに飲むことができる。

外装体 110 に対するパウチ 200 の收容の仕方としては、まず、開状態とした外装体 110 の右側シェル 130 の開口 150 に、係合片 155 をパウチ 200 のスパウト 250 の凹所 256 に係合することによってスパウト 250 を外装体 110 の開口 150 に取り付ける。次いで、固定機構 160 については、右側シェル 130 の底部ピン 161 をパウチ本体 210 の底部の貫通孔 219 に挿入する。この状態で、左側シェル 120 および右側シェル 130 を合体して外装体 110 を閉状態とすることにより、固定機構 160 については左側シェル 120 のピン受け 162 がパウチ 200 の底部の貫通孔 219 に挿入され、かつ、右側シェル 130 の底部ピン 161 がピン受け 162 内に嵌入されることによって、パウチ 200 の底部を外装体 110 に固定して取り付けることができると共に、開口 150 の内縁形状が環状になるよう閉じてパウチ 200 のスパウト 250 が開口 150 に固定して取り付けられ、これにより、パウチ 200 を外装体 110 内に收容することができる。

また、パウチ 200 内の内容物が空になったときは、留め具 127, 137 の嵌合を解除して外装体 110 を開状態とし、パウチ 200 を取り外し、新しいパウチ 200 と交換して空となったパウチ 200 を廃棄し、この手順を繰り返して外装体 110 にパウチ 200 を收容して使用する。外装体 110 は繰り返して使用することができるので、廃棄されるゴミの総量を抑制することができる。

外装体 110 に交換して收容されるパウチ 200 は、同一形状のものに限定されず、開口 150 に適合して係合することができる凹所 256 を有するスパウト 250 を備え、かつ、固定機構 160 において固定可能なものであれば、別形状のものであってもよい。

【0019】

以上、本発明の実施形態を詳述したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することなく種々の設計変更を行なうことが可能である。

例えば、上述した実施形態に係る固定機構 160 および後述する複数の変形例に係る固定機構を、任意に組み合わせる外装体 110 を構成しても構わない。

また例えば、上述した実施形態では外装体 110 の開口 150 が上面の中央部に形成されたものとして説明したが、開口 150 の位置は、パウチ 200 におけるスパウト 250 の装着位置に従った位置であればよい。具体的には、例えばパウチ 200 としてスパウト 250 がパウチ本体 210 の上縁部の端部すなわちパウチ本体 210 の角部に装着されたものである場合には、開口 150 は外装体 110 の上方角部に形成させればよい。

また例えば、外装体 110 の開口 150 は、左側シェル 120 と右側シェル 130 とに平等にまたがらず、いずれか一方に寄った状態に形成されていてもよい。このような構成にすることによって、外装体 110 へのパウチ 200 の装着時に脱落することを抑止することができる。

【0020】

また例えば、パウチ 200 の底部を固定する固定機構は、図 6 に示されるように、パウチ本体 210 の底部の下縁シール部 214 を両側から挟む挟持部（下部挟持部）を有する構成であってもよい。具体的には、固定機構 170 は、左側シェル 120 の下部の側壁 126 の内表面に突出して形成された波形状または針形状の突出部 171 と、右側シェル 130 の下部の側壁 136 の内表面に突出して形成された、前記突出部 171 と噛み合う形状および適合する突出長さの突出部 172 とから構成され、パウチ 200 の底部の下縁シール部 214 を厚み方向の両側から挟み込むことによって固定することができる。固定機構 170 がこのように挟み込む構成のものであることにより、パウチ 200 にピン留

10

20

30

40

50

め具を挿入するための貫通孔を開ける必要がなく、また、パウチ２００の取り付け時にピンに貫通孔を引っ掛ける手間も必要がなく、高い利便性が得られる。また、外装体１１０に取り付け可能なパウチ２００の種類を広げることができる。

【００２１】

本発明の外装体は、パウチ２００のスパウト２５０が固定される開口１５０が備えられる一端部とは異なる他端部にパウチ２００のスパウト２５０以外の部位を固定することが可能な固定機構が備えられているものであるが、他端部に固定機構によって固定されるパウチ２００のスパウト２５０以外の部位とは、パウチ２００の底部に限定されず、パウチ２００の上部におけるスパウト２５０に隣接した肩部（上縁シール部２１３）や、パウチ本体２１０の胴部、パウチ本体２１０のヒートシールされた側縁部（側縁シール部２１５）などを含む。

10

【００２２】

例えば、パウチ２００の上部におけるスパウト２５０に隣接した肩部をさらに外装体１１０に設けられた突出部によって挟んで固定してもよい。具体的には、図７に示されるように、左側シェル１２０の把持用壁１２５の上部の内表面に突出して形成された波形状または針形状の突出部１８１と、右側シェル１３０の把持用壁１３５の上部の内表面に突出して形成された、前記突出部１８１と噛み合う形状および適合する突出長さの突出部１８２とから構成され、パウチ２００の上部の上縁シール部２１３のスパウト２５０が装着された領域の両側の肩部をそれぞれ挟み込むことによって固定することができる。パウチ２００の肩部がさらに固定される構成のものであることにより、パウチ２００内の内容物が少なくなっても、パウチ２００の上部が変形することが確実に防止されるので、パウチ２００の変形による流路の閉塞を確実に抑止することができる。

20

【００２３】

また例えば、パウチ２００のパウチ本体２１０の胴部を固定可能な固定機構１９０が設けられていてもよい。具体的には、図８および図９に示されるように、固定機構１９０は、左側シェル１２０の把持用壁１２５の中央部の内表面に突出して上下方向に伸びるよう形成された複数の補強リブ１９１と、右側シェル１３０の把持用壁１３５の中央部の内表面に突出して、前記補強リブ１９１と対応する位置および形状に形成された補強リブ１９２とから構成された胴部挟持部を有し、パウチ２００のパウチ本体２１０の胴部を厚み方向（図９における上下方向）の両側から挟み込むことによって固定することができる。パウチ２００のパウチ本体２１０の胴部がさらに固定される構成のものであることにより、パウチ２００内の内容物が少なくなっても、外装体１１０の内部でパウチ２００と外装体１１０との間に遊びが発生することを抑制することができる。また、補強リブ間に空気層が確保されることにより、保温／保冷機能が付与され、これにより、外装体１１０の外表面に結露が生じることを抑制することができる。

30

また、パウチ２００のパウチ本体２１０の胴部を固定する固定機構は、パウチ本体２１０の側縁シール部２１５に形成された貫通孔に挿通される側部ピンおよびピン受けよりなる構成のものであってもよい。

【符号の説明】

【００２４】

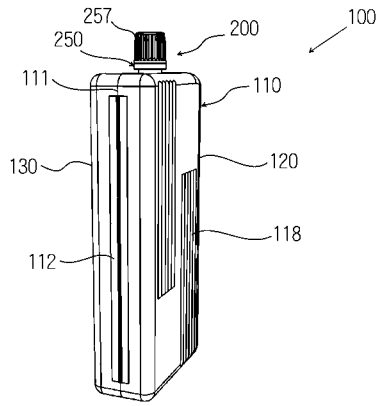
40

- １００ 二重構造容器
- １１０ 外装体
- １１１ 分割線
- １１２ ヒンジ
- １１８ 凹凸溝
- １２０ 左側シェル
- １２５ 把持用壁
- １２６ 側壁
- １２７ 留め具
- １３０ 右側シェル

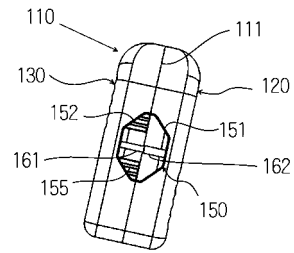
50

1 3 5	把持用壁	
1 3 6	側壁	
1 3 7	留め具	
1 5 0	開口	
1 5 1 , 1 5 2	切り欠き	
1 5 5	係合片	
1 6 0	固定機構	
1 6 1	ピン	
1 6 2	ピン受け	
1 7 0	固定機構	10
1 7 1 , 1 7 2	突出部	
1 8 1 , 1 8 2	突出部	
1 9 0	固定機構	
1 9 1 , 1 9 2	補強リブ	
2 0 0	パウチ（スパウト付きパウチ）	
2 1 0	パウチ本体	
2 1 3	上縁シール部	
2 1 4	下縁シール部	
2 1 5	側縁シール部	
2 1 9	貫通孔	20
2 5 0	スパウト	
2 5 1	スパウト本体	
2 5 2	筒部	
2 5 3	リブ	
2 5 6	凹所	
2 5 7	キャップ	

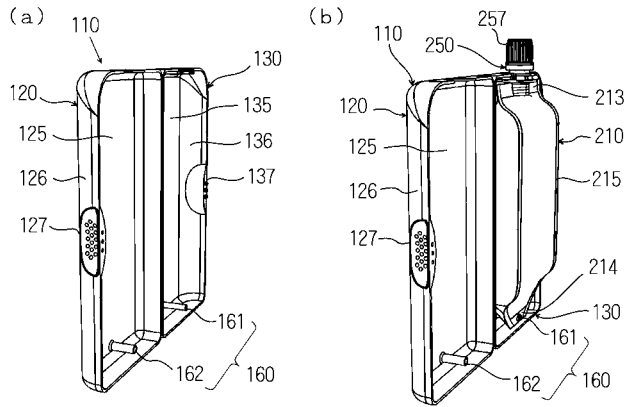
【図 1】



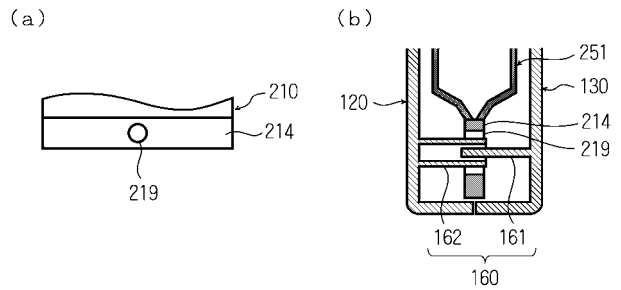
【図 3】



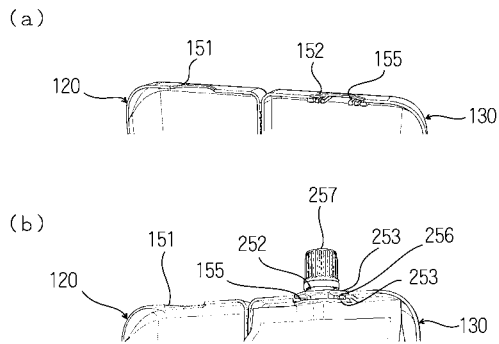
【図 2】



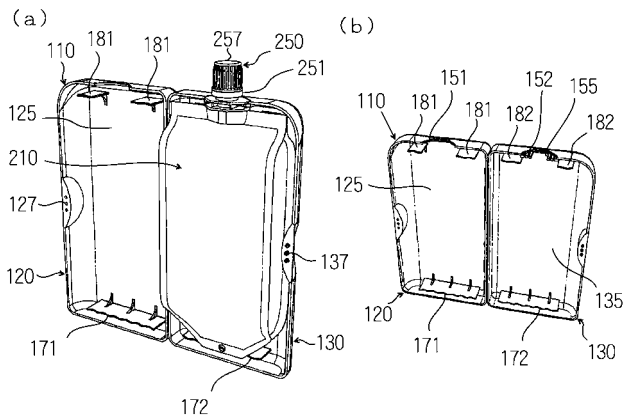
【図 4】



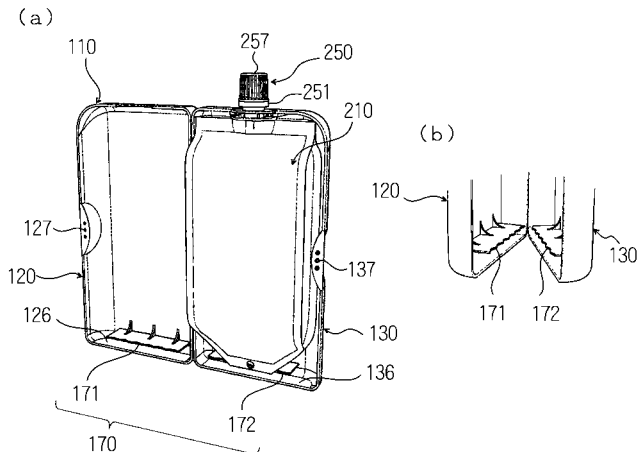
【図 5】



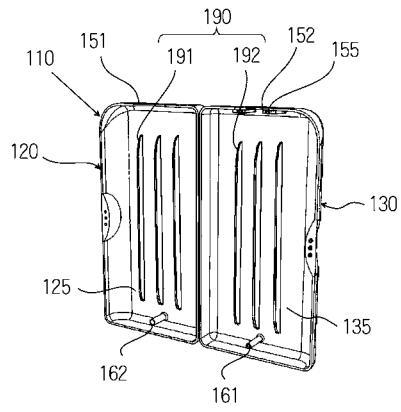
【図 7】



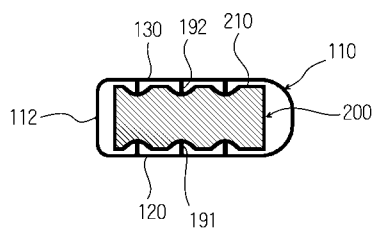
【図 6】



【 図 8 】



【 図 9 】



フロントページの続き

(72)発明者 上原 貴史

東京都品川区東五反田 2 - 1 8 - 1 東洋製罐グループホールディングス株式会社内

(72)発明者 秋岡 正宏

東京都品川区東五反田 2 - 1 8 - 1 東洋製罐グループホールディングス株式会社内

(72)発明者 細貝 卓

神奈川県横浜市鶴見区矢向 1 - 1 - 7 0 東洋製罐株式会社テクニカルセンター内

F ターム(参考) 3E064 BA26 BA30 BA36 BA54 BB03 BC08 EA12 HM01 HN65 HS07

HS10 HU10

3E067 AA04 AB16 AB20 AB26 BB01B BB12B BB12C BB15B BB15C BB16B

BB16C BB25B BB25C CA04 CA24 EA06 EB27 ED08 EE59 FA04

FB07 GD06